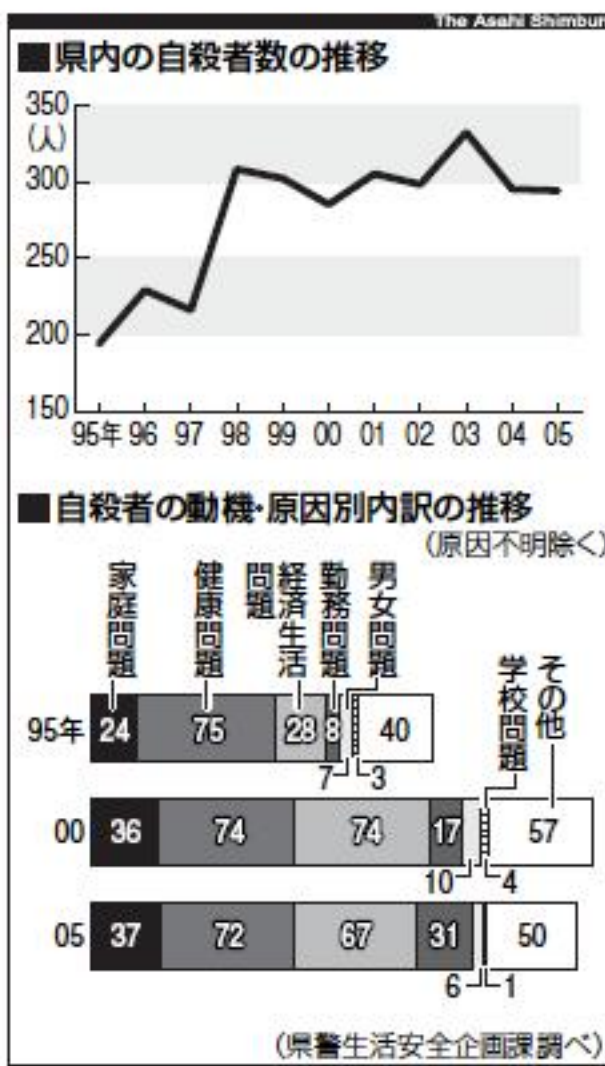


突然、身近な人が自殺 残された人に心のケア

突然身近な人を自殺で亡くした遺族らの心のケアにあたるようとする取り組みが始まっている。県の呼びかけで2回目となる遺族交流会が3月21日、金沢市広坂2丁目の県立生涯学習センターで開かれる。

県呼びかけ 金沢で遺族交流会

県警のまとめによると、県内の年間自殺者は95年に194人だったが急増し、98年に初めて300人を突破した。以来03年の332人を最高に、年間300人前後の高水準で推移しており、交通事故による年間死者数の約4倍にものぼる。05年の場合、男性208人、女性86人が自殺し、動機・原因別では、病気など健康問題を苦に「自殺対策連絡会議」を



04年2月に約30年間連れ添った夫(当時66)を自殺で亡くした加賀市の女性(57)が取材に応じ、心境を語ってくれた。

夫が04年自殺した女性、心境語る

04年に入って突然、夫ら。ノートの切れっ端の行方が分からなくなに無いボールペンでつづり、手紙が届きました。「借金がかさみ、仕事もなく死ぬしかない。娘をいい子に育てて欲しい。(愛用していた)時計を自分と違って、大切にしたい」と訴えましたが、最後に一言、「きょうな

2月29日の朝、自宅に夫から電話があり、「とにかく帰ってきてほしい」と訴えましたが、

最後の会話になりました。その日の夕、夫は首をつりました。当時16歳だった娘にはすぐに事実を伝えることができませんでした。

「交流会で話し少しすっきりした」

「自分が気を落ち着かせないと動揺が伝わってしまう」との思いからです。「とにかく生活のため働かなくては」と仕事に没頭しました。夜中には娘に隠れて

た友人の保証人になり、多額の負債を抱えたことが自殺の原因と分かったのはしばらくしてからでした。すっごく悔しかった。働いたり、家を売ったり、色んな方法があったのに……。債務者に対する憎しみや怒りもわきました。夫は「よくよしいても夫は喜ばない」と前向きに生きようと思いませんでした。

今でも自殺に関する報道には胸が締め付けられますが、自殺には根強い偏見があると感じます。自殺は心の病気で、自殺した人だけでなくその遺族も苦しんでいると

「聞き手・樋口彩子」

3月21日の遺族交流会は午後2時から午後4時。身近な人を自殺で亡くした人が対象。参加希望者は事前に県障害保健福祉課(076・225・1426)に申し込みが必要。同課の担当者は「私たちに出来ることは話ができる場を設けることだけです。もし一人で悩んでいる方がいたら、顔を出すだけでもいいので思い切って参加してほしい」と呼びかけている。

望者は事前に県障害保健福祉課(076・225・1426)に申し込みが必要。同課の担当者は「私たちに出来ることは話ができる場を設けることだけです。もし一人で悩んでいる方がいたら、顔を出すだけでもいいので思い切って参加してほしい」と呼びかけている。

充足させ、今夏までに予防策やサポート体制などを盛り込んだ行動計画を策定する方針。この中には遺族らのケアも大きな課題で、昨年11月3日には県主催の自殺予防のシンポジウムに合わせ、初の遺族交流会も開催され、数人が参加した。

自殺対策に取り組みするNPO法人「ライフリンク」(東京都千代田区)によると、自殺者の遺族会は全国で約20団体あるが、北陸地方にはまだない。西田正弘副代表は「会場確保や資金面など、民間の団体が運営するには困難な面が多く、行政側の手助けが欠かせない」と指摘する。